

国際連帯の力で戦争とめよう

階級的労働運動めざす世界の労組が来日

韓国労民主ソウル本部、ドイツ・イタリアから参加

山本弘行（動労千葉国際連帯委員会）

都内で9月14日、11・3労働者集会に向けた賛同団体・賛同人会議が行われました。国際連帯の取り組みとイメージについて動労千葉国際連帯委員会の山本さんの発言を紹介します。

11・3労働者集会へ向けての国際連帯の取り組みを中心に報告させていただきます。

*

韓国のAGC（旭硝子）非正規職支会は、目の覚めるような大勝利をかちとり、22人の組合員が正規職として職場に戻りました。職場の労働者488人を対象に、すでに旭支会

のビラを7回も配布し「私たちと一緒に闘おう」ということで第二幕の闘いに立っています（写真）。

もう私から申し上げる必要はないと思うんですが、AGC韓国工場の下請け間接雇用の労働者たちが労働組合を立ち上げたところ、メール1本で全員が解雇され、それから9年間闘って全面勝利しました。

支会長のチャホソさんの発言で私がかすく感動したのは、解雇を撤回し職場に戻って資本の規制を1つずつ踏み破って、労働者がこういうことをやれるんだということを示していることです。

私の経験では初めてです。日本で支援共闘組織を立ち上げて勝利したこと、しかも旭硝子という世界的な

11・3全国労働者総決起集会

11月3日（日） 正午 日比谷野外音楽堂
午後3時 改憲阻止！1万人行進（東京駅へデモ）



巨大資本に立ち向かって勝利したことをもう一度噛みしめて、今後、私たちがこの闘いの成果をどうつなげていくか、みんなで討論し、日韓連帯を進展させる方針を模索していきたい。

支援共闘会議の「支援」を取って日韓労働者共闘会議とすることで論議したいと考えています。

11・3労働者集会には、韓国からは民主労総ソウル地域本部が参加します。民主労総ソウル地本との連帯は2003年に始まりました。ソウル地域本部は、民主労総の中で「民

主労組」をつくり出すため奮闘しています。これを皆さん、ぜひ頭に置いていただきたい。「民主労総」と「民主労組」は発音が似ているので困るのですが、彼らが言う「民主労組」は、私たちが言う「階級的労働運動」です。

民主労総の中で階級的労働運動を闘い抜くソウル地域本部の苦闘の中で、私たちとの連帯関係があるわけです。

イタリアから初参加

ドイツからは、機関車労組のウーヴェさんが、ドイツの国労と動労の闘う労働者を結集して鉄道労働者のネットワークを形成する中で、今年も11・3集会に参加します。

鉄道労働者ネットワークの反戦・反資本主義的な立場は鮮明です。最近では、自分たちの実名を出して戦争反対のビラ「戦争をやる連中に私たちの子どもは渡さない！」を発行しています。

イタリアからは初めての参加が予定されています。「SI・Cobas」という労働団体の国際連帯委員会の責任者がみえる予定です。

SI・Cobasは、職場組織全国連合というような意味です。

【裏面に続く】



1990年代の初頭、ソ連が崩壊してイタリヤの共産党も解党するなど、の激動期に、戦闘的労組をめざして結成された独立労組の代表的な存在です。物流職場などで外国人労働者も組織して、メラニー政権による組合破壊攻撃と対決しています。

6月25日には、北部港湾都市のジェノヴァで、SI・Cobasの港湾労働者が、イスラエルへの兵器輸送阻止で、5つの主要な港を約10時間閉鎖しました。

SI・Cobasとは2020年の11月集会に連帯メッセージをいだいて以来、動労千葉とオンライン



などを通じて交流を続けています。トルコの国際労働者連帯協会(UID・DER)とも強い連帯関係にあります。

ちょっと残念なんですけど、米国のILWU(国際港湾倉庫労働組合)ローカル10(サンフランシスコ支部)から2006年の11月集会に参加したクラレンス・トーマスさん夫妻が、今回再び参加予定だったのですが、体調の関係で海外旅行が難しいとのメールが入りました。

ILWUも組合本部の制動を突き破って、イスラエル船の荷揚げを拒否して実力で闘っています。この報告を聞きたかったのですがやむを得ません。

戦争・首切りに対決

もう1つ報告したい点は、南ウエルズにあるイギリス最大の鉄鋼会社で3000人を超す首切りが始まったことです。

溶鉱炉を電気炉に変える。溶鉱炉は鉄鉱石に石炭(コークス)を混ぜて製鋼する。しかし、今や、くず鉄を集めて電気炉で処理するだけで充分ということ、すでに溶鉱炉を3基も閉鎖しているらしい。

かつて日本でも「溶鉱炉の火は消えたり」という有名な八幡製鉄所の

争議があるわけですが、今や溶鉱炉を電気炉に転換する。

何を根拠にやっているのでしょうか。GX/グリーン・トランスフォーメーションです。原発を推進し、ガソリン車を電気自動車に転換し、ついに鉄鋼の溶鉱炉を止めると。こういうことにも私たちは注目していかねばなりません。

日本に目を転ずると、JR資本がリードする形で「労働柔軟化」、解雇規制・整理解雇4要件の撤廃が狙われています。自民党の総裁選で小泉進次郎が何を言っているのか。「人員整理が認められにくい状況を変えていく。これが労働市場改革の本丸である」と。

介護現場では、例えばケアマネの仕事のリモートでやれという攻撃が始まっています。リモートの画面から高齢者が歩くのを見て判断せよと言つことです。これもDX、デジタル・トランスフォーメーションです。その一方で訪問介護の事業所閉鎖が過去最高となり、半年で80数件の事業所が閉鎖されました。

こうした中で社会のあり方を戦争に向けて転換・収斂していく攻撃が全面化しています。防衛費が8兆5千億円ですよ。8兆円をついに突破しました。まさしく「WX

(ウォー・トランスフォーメーション)の大攻撃です。

*

港合同昌一金属支部の闘いは、旭支会の闘いと同様、まさにその第2幕が開いたと私は感じています。この闘いを全力で支援し、共に闘っていく。

そしてヒロシマ・ファイブを奪還し反攻攻勢に立つ。弾圧された人々の人数をその地域の名前の後に着ける呼称であるヒロシマ・ファイブへの連帯の声が海外からも入り出しています。

自分ができるすべてを実行し11・3労働者集会に向かおうと思いません。その上で、11・3の大爆発を引つ下げて、国鉄1047名闘争の判決日である11月13日に東京地裁に攻めあがろうではありませんか。